

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	南海部郡弥生町立昭和中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	0	8	21
生徒数	63	81	83	0	227	

研究の概要

1. 研究主題

『生きる力を育む、個に応じた指導』～評価と指導を一体化させた教科指導～ 教科指導に際して、教科の基礎・基本をはっきりさせ、直接体験や生徒の興味・関心が生きる(考える場面がある)ように教材を開発したり、学習過程の工夫をする。 さらに、学習過程に評価を位置づけ、生徒がつまずきに気づき、修復できるような指導方法を確立し、継続的に実施すれば、主体的に取り組もうとする姿(意欲)が生徒に生まれ、確かな学力が向上される。
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年、全教科を対象に実施 生徒の理解の状況に差が出やすい学年と教科については、少人数指導・TTを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生・英語(少人数指導の実施)</li> <li>・3年生・数学(TT実施)</li> <li>・2年生・英語(TT実施)</li> <li>・2年生・数学(TT実施)</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「生きる力をはぐくむ個に応じた指導」 研究の見通し(仮説) 学力を広義でとらえ、学力の向上を支えるために必要な「学ぼうとする力(意識や意欲)」が、自尊心の高揚とそれを認め合おうとする集団づくりにあるとする。したがって、総合的な学習の時間や特別活動を充実させることにより、学ぶための場の確立を図る。 また、身につけさせたい各教科の力を評価規準から整理し、各単元の具体的な指導目標を明らかにしながら、指導方法の工夫を図る。その際、自己評価カードを活用することにより、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を養っていく。その両面の働きかけにより、継続性のある学力が身につけていくと考える。さらに、英語と数学においては、理解状況に個人差が出やすいため、少人数指導やTTの実施を推進する。</p> <p>研究の内容・方法 自己表現や主体的な行動をとることが苦手な生徒を中心にすえて、各教科、各領域を通して、生徒が互いの価値観の違いを認め合う学級集団をつくる。また、授業に体験的学習(活動)を取り入れるよう工夫し、自己評価表を使って次時の指導に役立てる。</p>
--------	--

	<p>テーマ 「生きる力を育む、個に応じた指導」 ～評価と指導を一体化させた教科指導～ 研究の見通し 学力を狭義にとらえ、各教科の指導目標をいかに生徒全員に理解させ、</p>
--	---

平成15年度	<p>定着を図るかという視点で研究を推進する。したがって、各教科の年間指導計画及びそれに合わせた評価計画を作成する。そして、授業では小単元ごとに全生徒の到達状況を把握し、その評価結果を生かして次時の指導計画を立てていくという、評価と指導が連動した授業づくりをめざす。このことは、指導者の個性を生かしながら、指導力を向上させるということでもあり、それによって、生徒の理解や定着の状況が肌で感じられ、確実な学力向上が期待される。また、昨年度に引き続き、英語・数学については年間を通して、少人数指導やTTを実施し、効果的な指導方法を探る。</p> <p>一方、学びの場の確立のために、総合的な学習の時間をさらに充実させ、思いやりと課題解決力を高めていく。そういった総合的な働きかけにより、生徒の学力がさらに高まると考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎・基本を重視した教科指導（年間指導計画と指導内容の工夫） <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科部会により、評価基準の設定と評価方法の検討、評価簿の作成</li> <li>・通知表の見方を作成し、生徒・保護者に対する評価説明会を実施</li> <li>・わかる授業づくり（指導力向上）のための、指導方法及び教材の工夫、開発</li> </ul> </li> <li>2 個に応じた指導（指導法の改善等に関わって） <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年、3年数学のTT</li> <li>・2年英語のTT及び3年英語の少人数指導（1クラスを等質二分）</li> <li>・基礎学力の定着をねらった選択教科、発展・応用をねらった選択教科の開設</li> </ul> </li> <li>3 総合的な学習の時間の充実（自己の生き方に深く関わる内容や縦割り活動） <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を見つめる、自分探し、生き方に関わることがらをテーマに、年間70時間を全校（20）と学年（50）に振り分け実施</li> <li>・縦割りの活動も実施</li> <li>・総合ファイルの準備（ポートフォリオ）による個人の成長の把握</li> </ul> </li> <li>4 特色ある取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・『読み・書き・計算』を強める指導としての、学校統一した朝読書の時間</li> <li>・教科の取り組みとしての、校内漢字テストや100マス計算の実施</li> <li>・聞く姿勢をつくるための授業規律の設定</li> <li>・発達段階や指導時期に応じた学年、学級活動内容の工夫</li> <li>・教育相談の充実のための、定期相談、保健室、カウンセラーとの連携</li> </ul> </li> </ol>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 第2年次と同じ</p> <p>研究の見通し 第2年次と同じ</p> <p>研究の内容・方法 第2年次をさらに深める。</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制

<p>教科部会、及び学年会が研究の推進母体となり、研究推進部及び条件整備部が調整にあっている。 定期的に全体研究会を開催し、各学年、各教科の情報交換及び実践研究の方向性を審議する。</p>
--

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎・基本を重視した教科指導（年間指導計画と指導内容の工夫） 到達目標を設定し、それにあわせて評価方法を検討し、評価計画を立てた。そういった一連の作業により、授業の流れや内容の軽重が明らかになり、指導のコツを具体的につかむことができるようになった。 絶対評価の趣旨や方法が生徒・保護者に理解されるよう、通知表の見方の資料を作成し説明した。その結果、個人の取り組みがそのまま評価として反映されることが理解され、授業に臨む姿勢がよくなった。 一斉授業の形態のまま指導効果を飛躍的にあげるということには自ずと限界がある。しかしながら、生徒がイメージしやすいように教具を開発したり、学習プリントの活用などで、ねらいとする内容をより具体的に提示すること</li> </ol>
---

- はできる。そういった授業づくりを続けていくことが指導力の向上をもたらす、生徒へも還元される。
- 2 個に応じた指導（指導法の改善等に関わって）  
2年、3年数学ではT Tを、2年英語ではT T、3年英語では少人数指導（1クラスを等質二分）で実施をした。一人一人に目が届き、学習効果はかなり期待できることがわかった。  
基礎学力の定着をねらった選択教科、発展・応用をねらった選択教科を開設し、生徒に選択させた。昨年より履修幅を広げたことで柔軟に対応できたと思われる。
- 3 総合的な学習の時間の充実（自己の生き方に深く関わる内容や縦割り活動）  
3年間を見通した全体のテーマを設定し、それに基づいた活動計画を立てたために、細切れた活動という意識はやわらいできた。また、総合ファイルの準備（ポートフォリオ）によって、成長の時間的な変化が把握しやすくなった。
- 4 特色ある取り組み  
全校一斉に毎日10分間の朝読書を設けた。2年間続けたことになるが、精神面、情緒面での成長が大きく、すべての教育活動にいい影響を与えることがわかった。  
教科の取り組みの一環として校内漢字テストや100マス計算を実施した。短い時間であるが、確実に基礎学力がつく。  
教育相談活動の充実のため、養護教諭、カウンセラーとより深い連携に努め、定期的に情報交換会を開催した。友だち関係や家庭状況で悩みを抱える生徒が増える傾向にあり、学力向上のための学習環境の整備で重要である。

## 2. 今後の課題

各教科は各教科でそれぞれ目標があり、その達成のために必要な実施時数を確保しなければならない。したがって、低得点の生徒に特に必要である基礎学力の補充を、どの時間帯にどのような方法で実施していくかが新しい課題となった。  
学力向上に焦点を絞ると、どうしても人間性の向上がおろそかになりがちとなる。両方を強く関連づけ、同時にすすめていかなければ、学校教育目標の達成も難しいものとなる。限られた時間の中でどこまでが可能なのか、広い視野で見つめ直す必要がある。

### 学力把握のための学校としての取組

標準検査の実施（CRT、NRTなど）  
・新CRT（数学と英語）を2年生で実施 ... 7月  
・NRT（数学と英語）を2年生で実施予定 ... 3月

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開研究会の実施 平成16年11月25日（木）11:30～15:00  
近隣校への研究資料の配付  
学校間連携推進地域連絡会への参加

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  ■ 7～9学級                       10～12学級  
                                   13～15学級                     16学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                    ■ T・Tによる指導  
                                   その他
- 【研究教科】              ■ 国語                      ■ 社会                      ■ 数学                      ■ 理科  
                                  ■ 外国語                    ■ 音楽                      ■ 美術                      ■ 技術・家庭  
                                  ■ 保健体育                ■ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有       無